

令和5年度 第4回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日時 令和6年2月26日（月曜日） 14時から15時54分まで

出席者 佐藤委員、藤田委員、古橋委員、蛭川委員、高江洲委員、神作委員、稲垣委員、芝委員
美濃口委員、横田委員

欠席者 安井委員

傍聴 2名

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長外川 他4名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 出席状況について、藤田委員がリモートで出席。 資料確認 次第 資料1 相談支援従事者研修検討会検討チーム報告書 資料2 令和5年度相談支援従事者研修検討会活動報告（事務局案） 資料3 令和6年度相談検討会の検討チーム編成（案） 参考資料 専門コース別研修標準カリキュラム（国要綱より抜粋） 記録のため速記者の方が参加をしていること、会議の内容の録音についてご了解いただきたい。また、傍聴として、指定研修事業者が参加している。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 本日の検討事項は次第により5点となっている。 第4回検討会の資料公開については、議事録要旨と併せて、委員の皆さんに確認していただいた後、公開予定となっていることについて、了承いただけるか。
各委員	(異議なし)

2 検討事項

(1) 各検討チームからの報告と引き継ぎ事項

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> では、次第の2、検討事項の(1)各検討チームからの報告と引き継ぎ事項に移る。 内容整理チームと人材育成チーム、各リーダーより今年度の取組内容、成果、次年度への引き継ぎ事項、またほかのチームの皆様から意見をいただきたいこと、この場で検討してほしいことについて、5分程度で報告をいただきたい。 まず、内容整理チームの古橋副委員長に報告いただきたい。
古橋副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 資料1をご覧いただきたい。3点の事項について報告したい。 1点目、相談支援専門員の姿Ver.9について、Ver.8をブラッシュアップし、行政職員をターゲットに、福祉に関わっていない行政職員等を想定して、まとめることを進めている。現時点での成果物を、3ページ目にお示しした。完成時期は令和6年度の初任者研修または令和7年度の現任研修を想定している。 次年度への引き継ぎ事項では、Ver.9のなかの、「様々な障壁」を具体的にイメージできるよう、言葉やイラストを使用して表現する予定。具体例は表にあげ

	<p>ているとおり。これらを手書きで示したフレームに沿って仕上げたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2点目、補助教材については、講義動画を個別の動画配信などアクセスしやすい形にすることを検討しており、ファシリテーターの方々が困難に感じる部分を考慮しながら具体的な内容を検討中。5 Picsやニーズ整理表を分かりやすく説明したものを提供できるよう、具体的なやり方を検討している。 ・ 次年度は演習指導者養成研修の受講者にあたるファシリテーターへ提供できるようにしたいと考えており、アクセスしやすく関心が持てるような内容にしていきたい。 ・ 3点目、演習で使用する新事例については今年度の初任者研修より変更した。次年度に向けて、個性がもう少し見えるように基本情報のグラフィックへ追記していく。オリジナルのものをオーダーメイドで計画作成できるような情報を考えるため、もう少し丁寧に作り上げていく予定。週間計画表についても、説明不足なのではないかという意見があり、シナリオの調整などやバージョンアップを検討。 ・ 以上となる。皆様からご意見をいただきたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告いただいた内容について、深めたい事、確認しておきたいことなどあればご意見頂戴したい。 ・ 私のほうから1点。3ページ目のVer. 9に向けての資料だが、以前出されたものに比べて、かなり硬い表現になった印象があるが、何か経緯があるか。
美濃口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回のものはつなぎ合わせた印象があり、作成し直した。行政職員を主眼に置き、読んでわかりやすいものにするため、意識して硬い表現を使用し、社会モデルの説明を追加した。 ・ また、下の文章や枠外の文章は以前のバージョンから引用し、整理し直した。蛭川委員から、具体的な障壁をイラストで表現するのがよいのではないかと提案があり、この部分は今後も変更を加えていく予定。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章の変更に関する状況や丁寧に進めている状況が良く分かった。引き続き次年度、内容を固めていただきたい。 ・ 他が無ければ、次の人材育成チームの報告をお願いしたい。
藤田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の人材育成チームは、資料1のとおり、自治体や拠点機関の実習対応者向けに実習説明会の検討をし、実施した。初任者研修の実習説明会では、実習受入ガイドを作成するとともに、初任者研修に使用するツールの使い方を含めた内容で実施した。 ・ また、現任研修実習説明会では、傾聴型のスーパービジョン（以下SVと略す）の説明を丁寧に言い、実習対応者にイメージしてもらえようデモンストレーションを取り入れた。 ・ さらに、初任者研修と現任研修の実習説明会の動画は、参加できなかったり、復習を希望する方々のためにインターネットで配信した。

- ・主任相談支援専門員の推薦要件についても、検討し、主任研修チームと連携して提案し、初任者研修の実習説明会で説明した。これにより、人材育成の現場から非常に良かったのではないかと、各自治体の考え方も変化してきているとの結果も聞いている。
 - ・現任研修の地域実習に関するアンケートも実施し、自治体や実習担当者の課題を把握し、解決策を検討していきたいと考えている。
 - ・研修別チームとの連携については、初任者研修、現任研修、専門コース別研修、主任研修とメンバーを分担して配置している。
 - ・次年度への引き継ぎ事項としては、自治体や拠点機関実習対応者向けの実習説明会の検討を継続する予定。今年度の実習説明会の改善点として、研修の流れや地域実習におけるSVの役割をより分かりやすく伝える工夫をしたいと考えている。
 - ・また、現任研修の地域実習では、自立支援協議会等への参加が必須となっているが、その参加の意義や視点についても説明会で明確化していきたい。
 - ・さらに、自治体の担当者に、地域の相談体制、3層構造について説明をいただくことが実習にも組み込まれているが、資料を渡すのみ、HPを確認するよう指示するのみという自治体もあった。そのため、3層構造が実際には具体的にどのような役割を持っているのかなど担当者から説明をしてもらえるような仕組み作りや、不明点について質疑ができるような対応をして欲しいとお願いする予定。今年度は自治体の対応が様々だったが、今後は実習対応が良かった自治体を先行事例として紹介したいと考えている。
- 参加者への周知については、まだ一度も参加していない自治体が10自治体ほどあるため、事務局から声かけを行い、参加を促していく予定。
- ・地域実習のSVのデモンストレーションについては、内容が理解できている想定シナリオになっているため、初任者研修のツールの使い方や相談支援専門員としての役割の理解が少し乏しい受講生のバージョンにしたシナリオの動画を作成する予定。
 - ・また、各地域での人材育成のための仕組みづくりについても検討していく。研修の成果物を実習対応者にフィードバックし実習対応者のスキルアップにつなげられないか、検討していたが、個人に対するアプローチは難しいだろうと話している。そのため、優先順位としては実習説明会を主軸に置き、まずは参加してもらう。その上で主任研修修了者がファシリテーターや検討委員に参画できるような方向性も示していきたい。また、実習対応者に演習指導者養成研修などを受講してもらい、ファシリテーターとして、この研修に関わってもらえる仕組みも、演指研チームと連動して検討していきたい。
 - ・皆さんからご意見いただきたい事として、初任者研修と現任研修のSVの質の均一化について、成果物のフィードバックやSV対応時の伴走等検討したが、難しいのでその他に良い案があれば皆さんからぜひご提案いただきたいと考え

	<p>ている。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。 ・皆様から意見を頂戴したい。同じチームの方から補足があればお願いしたい。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーションの内容について、実習対応者にとって理解が難しい受講者の例を示すことで役に立つのではないかという意見が出ているが、具体的な例や方法については検討が必要。 ・スーパーバイザーの質の均一化について、スーパーバイザーに提出された実習課題を返すのは難しいと思うが、何らかの形で見られる機会が持てると、質を高めていけると思う。その難しさをチームとしては感じているので、他のチームからもご意見いただきたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・実習説明会に参加していない自治体がまだ存在するという点で、自治体間の格差が生じている可能性があることは大きな課題。 ・実習説明会への参加の必要性について、自治体により、意識の差があるように思うので、説明会にどのような意味があるのか伝えていくこと、自治体関係者との密なコミュニケーションが必要と思う。 ・自治体間の格差について、検討会のメンバーや関係者がコミットしていけると良いと感じた。 ・スーパーバイザーの質の均一化について、芝委員いかがか。
芝委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実習対応のSVの対応に開きがあり、それが研修の成果にも影響しているなかで、各区市町村によっては、基幹を中心に実習対応者に集まってもらい、何を伝えるべきかを共有したり、成果物を集めているところもあるようだ。このような好事例を説明会で共有し、自分たちの地域でも同様の取り組みができることに気づいてもらうことが重要だという話になった。東京都全体で一つの方法を実施することは難しいかもしれないが、各地域が自分たちに合った方法を見つけることができれば良いと思う。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・方向性は示すが、区市町村ごとに事情や特性はあるかと思うので、オリジナリティを持って検討してもらえると良いと思う。 ・人材育成チームの報告は以上とする。 ・引き続き研修ごとの検討チームの進捗状況につきまして、事務局のほうからご報告をお願いしたい
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現任研修チームは、1月19日より始動した。令和6年度の研修に向けて、チームとしての進め方について、講義や演習について検討している。2月29日には演習全体のレビューを行い、修正点を確認した後、資料作成に入る予定。 ・演習指導者養成研修は全日程が終了した。次年度はファシリテーション研修と演習指導者養成研修を一本化して実施する予定であることは前回検討会でお伝えしたとおり。そのため、令和6年度の演習指導者養成研修チームについても、今年度中にプログラム構成などを検討する予定。 ・主任研修は現在実施中で、3日目まで終了している。3月13日に全日程の振

	<p>り返りを行う予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門コース別研修1は振り返りを実施し、受講者からのアンケートも好評であり、今年度のチームの活動は終了している。 ・初任者研修は2月1日に全日程が終了し、2月19日に振り返りと課題の洗い出し、情報保障についての確認作業を行った。 ・以上が報告となるが、各研修チームからの補足があれば意見ををお願いしたい。
高江洲委員	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修チームの振り返りでは、週間予定表の項目を追加したことで、時程が非常に詰まってしまったため、整理する必要があるという意見が出された。また、事例変更により、鈴木陽介さんの性格などをもう少しブラッシュアップする必要があるという意見もあった。さらに、初任者研修の受講生の中には、障害福祉サービスの内容の理解が乏しい方もいるので、用語の説明書を以前のように掲載することについても話し合われた。
稲垣委員	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の、演習指導者研修とファシリテーター研修の一本化に向けて、事務局と話し合いを進めてきた。次年度の研修を一本化するために、研修1日目と一緒に進むと、実際に初任者研修が始まるまでの間が長く空いてしまうため、その間のフォローアップについても詳細を詰める必要があると思う。 ・自身も両方の研修を受けてみる中で、一本化できる部分とできない部分があること、また初任者研修の方が実は難しいのではないかと、ということを感じている。ファシリテーションをする上で、初めての方が初任者研修を担当している現状を考えると、現任研修の方が初任者として取り組みやすいのではないかと、という話も出ているので、これらの点を研修の内容や文言に反映させることを考えている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーションのやりやすさは、内容理解している現任のもとでやるかで違うかと思う。 ・横田委員、自身の担当する研修について、いかがか。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修について、3日目や4日目の内容が凝縮されており、理解できないと後の内容も理解できなくなる状況なので、全日程の中で大事なところ。説明が詳細すぎて逆に伝わりづらくなっている部分もある可能性があり、シンプルで分かりやすい説明方法を考える必要があると思う。プロセスではなく、説明の内容ややり方に対して、必要な部分とそうでない部分を適切に取捨選択する作業も必要かもしれないと感じた。不安から説明を付け足したくなる気持ちがあるが、もう少しシンプルにできれば良いと個人的に思う。 ・演指研について、次年度は半日の内容を1日の演習にする予定だが、もう半日分の内容は数年前のものを参考に考える。研修自体はファシリテーター養成ではなく、地域でファシリテーションのスキルを活かして活躍する人材を育成することが本来の目的でもあるので、そのような内容も含めて研修内容を考える必要があると思っている。
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修には、様々なバックグラウンドを持つ人々が参加しており、参加者

	<p>全員が相談支援専門員になりたいわけではなく、会社に後押しされて参加している場合もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の生活や制度に関して、全員がきちんと学んでいるわけではなく、難しさを感じる。 ・ 実習振り返りシートには、社会モデルや権利擁護、本人主体などの用語が出てくるが、これらは現場の経験が無かったり、障害福祉を学んでいない人にとっては理解が難しく、回答に迷った人が見受けられた。 ・ そのため、サポーターが理解できるよう巻末に付けていた用語集を復活させたり、実習振り返りシートにでてくる用語の説明をスライドや演習ノートに付け加えたりできると良いのではないかと感じている。 ・ また、初任者研修のニーズ整理と5Pics、ミスポジション論と5Picsをとおしての説明は一度では理解が難しい。これが、SVを受けることによって、初任者研修の内容を理解できる人も増えた。以前の初任者研修より、自身に落とし込める人が増えたと思う。 ・ 一方で、SVのありようによっては、研修の本質が見えずに終わってしまう人もいるようなので、人材育成チームと初任者研修チームの連携が重要だと感じられた。
美濃口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主任研修に通して出席しており、3日目まで終了している。 ・ 所感として、研修開始から5年を迎えて、昔から相談支援を行ってきた人々は早々に受講し終わり、次の世代に入っている印象がある。今回の報酬改定により、主任加算の要件も変わり、さらに受講者層が変わってくる可能性があるなかで、集合型の研修で、参加者に残るような研修を行うため、チームで検討しながらワークを多めに入れるなど工夫して、行っている ・ 初任者研修から主任研修まで変わらない課題として、受講者のバックグラウンドや研修受講の目的により、こちらが伝えられるものが変わってくるという印象がある。 ・ また、研修の中で次の人材を探している状況で、委員で画策している。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主任研修は地域の核となる人材を育成するので、色々な意味でハードルが高いと感じていた。 ・ 研修に参加している皆さんは、地域でリーダー格の方々であり、地区社協の運営や障害領域以外でも活躍されているの方々。研修を通じて刺激を受けた受講者が、地域に戻って意識的に活動されている方もいるので、委員の皆様には負担をおかけするが、何とぞよろしく願いたい。 ・ 多くの御意見を頂戴した。引き継ぎ事項については次年度に引き継ぎたい。 ・ 検討事項の1については以上とする。

(2) 令和6年度相談支援従事者研修 専門コース別研修について

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・検討事項の2について、変更点等を含め事務局からお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、今年度のファシリテーション研修（専門コース別研修2として実施）と演習指導者養成研修を一本化して演習指導者養成研修として実施する予定。そのため、専門コース別研修2について、集合型1日の新たな企画を実施する予定。 ・この研修のテーマについて皆様からご意見を募集するため、厚生労働省専門コース別研修の標準カリキュラムを参考資料として配布したので参照していただきたい。その内、6と8は過去に実施済み。 ・事務局としては、地域の人材育成や拠点機関でのSV対応に関して、引き継ぎ事項にもあり、また国研修受講者からの報告で、SVを学ぶ機会が少ないという意見もあり、次年度ではSVについて取り上げてはどうかと考えている。 ・他の案や、SVをテーマとした場合の具体的な内容について、皆様から意見をいただきたい。
藤田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・以前に意思決定支援の専門コース別研修に関わり、専門的な知識を持った方々にご登壇いただいております。お話ししていただいたことが非常に有益だった。 ・初任者研修や現任研修において、今、SVの重要性を感じているので、このテーマを取り上げて良いと考えている。 ・ただ、SVが研修に登場してから、少しずつ変化しているため、東京都としてどのようなSVを取り入れるかは、検討する必要があると感じている。
古橋副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・準備の大変さを思うと、アイデアが湧かない部分もあるが、SVはとても良いと思う。 ・今、相談支援従事者研修でSVを受けている方は、現場の先輩方とは同研修の受講時期が違うため、対話が難しい時期だと思う。そのため、スーパーバイザーとバイジューの立場の違いを捉えて対応できるような内容を考えていけると良いのではないかと。 ・新しいテーマというより、伝え方のスキルアップのようなことが良いのではないかと。
芝委員	<ul style="list-style-type: none"> ・SVはやりたいし、やって欲しいと思うが、その対象者を考えたときに、主任や現任の経験の豊富な方たちとなり、ターゲットが狭まる印象があり、気になった。 ・今年度の専門コース別研修が「介護支援専門員との連携」についてで、事業所の初任から全ての職員が受けることができたのが良かったので、そのように感じた。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から、補足をさせていただきたい。 ・今年度から、この専門コース別研修が一本から二本になった。そのため、今年度は介護支援専門員との連携を専門コース別研修1として実施。これについては、良い内容の研修ができたので、来年度も同じものを、対象、規模を変えずに実施したい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今、テーマについて意見をいただいている、専門コース別研修2は、もともと対象の人数もあまり多くないので、対面型で1日という規模で考えている。
美濃口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・主任研修の3日目がSVについての内容。限られた時間の中で、非常に多くの内容を詰め込むため、講師も受講者も大変だというのが率直な感想。古橋副委員長の指摘する伝える側の工夫ややり方の問題は確かに重要だが、同じ内容で行うなら、やって良かったやり方を共有することも必要と感じる。 ・また、ソーシャルワーカーではない、異なるバックグラウンドを持つ参加者に対して、どのようにSVを伝えていくかという視点も今後求められると感じた。 ・ただし、ここに意図的に参加している方は、ある程度のバックグラウンドを持っていると思われるため、主任とは異なるアプローチを考えながら、対象者像を検討し、連携できるようにすることが望ましいという印象を受けた。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院の講義でSVを行っているが、1日ではなかなか伝えきれない部分もある。実際にやってみることで、肌感覚を持って帰ることが重要だと感じている。たとえ1日でも、その辺がうまく伝わるような研修が重要だと思う。確かにSVをしっかり行おうとすると、大学院では半期を使って行うため、その点は難しい。 ・ただ、一方でSVを受けたことがない人は、児童分野や高齢分野と比べると、障害領域では圧倒的に多いと感じている。そのため、もう少し裾野が広がることも重要だと思う。SVについて、こんな感じなんだという感触を持っている人を増やすことが大事だと思っている。 ・最近のトピックスとして、強度行動障害や地域移行などがあるかと思うが、他の皆様の意見はあるか。
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度から始まったピアサポーター体制加算の創設により、障害者ピアサポート研修が行われ、ピアサポーターを配置しようとしている事業所は着実に増えて、相談支援専門員との協働が進んでいる。 ・ピアサポーターとして地域移行に寄与したいと思っている当事者の人も少なからずいるので、ピアサポーター自身のスキルアップは必要と思う。同時に相談支援専門員が、これまでは支援者としての視点でしか見ていなかったピアサポーターと、同僚として一緒に働いていくことになる。その際の関係性の変化など、双方に影響を及ぼし合うために障害者ピアサポート研修がつけられているし、事業所の理解によって、ピアサポーターの羽ばたき方も変わってくると感じている。 ・ピアサポーター体制加算は相談支援事業所に限られないため、地域移行をテーマにすることなどあれば、そこに加えてピアサポートの事もやっていくのも良いのではないか。緊急性はないが、今の流れとしてはやれると良いのではないかと感じている。 ・もう一つ、参考資料にあるセルフマネジメントについても関心がわいた。私たち、自立生活センターではセルフマネジメントを打ち出してきたが、計画

	<p>相談を利用する方々を見ると、相談支援専門員に任せるような空気感もあるなか、エンパワーメントや、セルフマネジメントなど、自分の生き方を考えるための支援をすることとはどのようなことか、というのも興味深いと感じた。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> • ここまでのところで、SVについてと、地域移行にからめたピアサポートという意見が出ているが、いかがか。
稲垣委員	<ul style="list-style-type: none"> • ファシリテーターをしている際に、障害児について知識のない受講生が多いことを感じている。また、障害児に特化した支援を行っている方々が、研修のグループ内で独自の方向性を進んでしまうこともある。現在支援している成人の障害者は、かつては障害児であったことから、将来的には障害児支援に焦点を当てることをお願いしたいと思っている。私たち、日常的に障害児支援を行っている者として、この願いは非常に強く感じている。また、最近では知的障害のない発達障害児が増えているという現状もあり、この学びを深めていただきたいと思っている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> • ありがとうございます。もう一つテーマが増えた。 • 私自身もサロンを運営しながら、障害当事者の保護者は子供の教育問題について悩んでいて、教育と福祉のつなぎ目のところで、すごく疲弊をしているので、何かそこを救う方策はないのかということは、議論になるところ。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> • 専門コース別研修標準カリキュラムの8つのコースは、全て必要な内容なので、すべてやれると良いと感じられる。 • 相談支援専門員の研修受講者はいるのに、従事者は増えていない、事業所閉鎖もまだ聞くことがある状況なので、今の東京都の流れでは、人材の育成と定着が重要なテーマと思う。 • 様々な機関との連携という意味では、今の時代の流れの中で介護支援専門員との連携も重要なテーマと思う。 • 今日、話題として出ている、研修として相談支援従事者をどのように育成していくかという大きなテーマでいうと、SVは良いのではないか。SVについては、初任者研修では触れる程度、現任研修ではしっかりとした講義があるが、実践に結び付かず自分のものにならずに終わっている可能性がある。主任研修では1日かけて取り組んでいると考えると、それらの研修の補完の意味合いもあり、今の流れとしては良いのではないか。 • SVを学ぶ機会が色々なところがあり、その中の一つがこの専門コース別研修の場と考えると、次年度取り上げる意味があると思う。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 皆さんありがとうございました。次年度の専門コース別研修の内容については、SVに関して意向が大きいようなので、こちらをテーマとしたい。今後、ピアサポート、障害児支援とつなげていければ良いと思う。 • 私自身が調査をした際、バーンアウトしない支援者は、自分の支援を振り返ったり、SVを受けていた。施設内でしっかりSVが展開をされるということが、いかに人材を離さないかということが分かった。まさにSVはそのような意味

	で展開をするべきだと理解が広まると良いと思うので、次回のテーマは人材育成定着に向けたS Vの在り方ということで進めていただきたい。
--	---

(3) 令和5年度活動報告(事務局案)の確認について

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討事項の(3)について、事務局より説明をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料2を参照いただきたい。 ・ 年間の活動方針は、1点目が区市町村における拠点機関での実習対応のバックアップ方法の検討、2点目が研修に携わる人材の選出の考え方や循環の仕組みについての検討、3点目が演習で使用する架空事例の刷新、受講者向け視聴覚教材等の補助教材についての検討、4点目が研修と検討会を連動して進められるよう、研修別、課題別に検討体制を構築する、としていた。 ・ 委員構成についてはご承知のとおり。活動状況についても表を確認いただきたい。 ・ 検討体制については、今年度から課題別のチームと研修別のチームに分かれて検討を進め、双方を連動して検討が行われた。資料にあるとおり、打合せ回数が増えてしまった。 ・ 活動成果として、1つ目が、令和5年度に引き続き、主に人材育成チームで取り組んだ、実習説明会の実施と、実習対応についてのバックアップ方法の検討。実習説明会では内容説明とデモンストレーションの実施、後日のインターネット配信、実習対応者へのアンケートを実施した。 ・ 2つ目が、主に人材育成チームと主任のチームが関わった、地域の中核人材となる主任相談支援専門員の推薦について推薦の具体例と研修終了後に地域で担っていただきたい役割について検討し、初任者研修の実習説明会資料として区市町村へ配付した。別紙1として配布したので参照して欲しい。 研修に携わる人材が循環していくよう、主任として地域での役割を担うとともに、東京都の相談支援従事者研修のファシリテーターやスーパーバイザーとしての役割を担ってほしいということも記載したところが大きな点と思う。 ・ 3つ目は、演習で使用する架空事例の刷新。主に内容整理チームと初任者研修チームが取り組んだ。これは現在の社会状況に見合うよう見直した。過去に一旦示したが、別紙の2として配布したので参照されたい。 この新事例に合わせ、初任者研修で使用するツール類やデモ動画等も作成し直し、令和5年度の初任者研修から使用した。新事例は、令和6年度の相談支援従事者研修で引き続き使用していく予定で、細かな調整を今後するという報告が内容整理チームからあった。 ・ 4つ目は、研修と検討会の連動について。研修別、課題別の検討体制を構築することで効果的に進めることができた。人材の巡回、委員の過度の負担を軽減するために、研修別のチームに検討委員OBや各研修のファシリテーターに協力者として参加いただいたことで、新旧メンバーの交流ができ、次世代への育成

	<p>につながったかと思う。一方で、双方の活動への参加で活動量が増え、負担感が増したことが、懸念点として挙がっている。</p> <p>また、例年どおり、国研修に参加をし、内容を検討会でも共有した。今後開催予定の最終日の研修内容については次年度報告したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けての引き継ぎ事項1点目は 実習対応者のバックアップについて。人材育成チームからの報告のとおり、説明会を実施し、動画で配信後、アンケートを行う。藤田委員からの提案に基づき、好事例を説明会などで共有したい。参加のない区市町村については、状況を確認し、個別の働きかけを行いたいと考えている。また、理解の乏しい受講者を想定したデモンストレーション動画を新たに作成し、研修に活用していく。 ・引き継ぎ事項2点目、研修補助教材の必要性の検討について。内容整理チームで、今誰に必要とされているか議論を重ね、まずは受講者ではなく、受講者をサポートするファシリテーターが研修内容を理解することが重要との結論に至った。来年度はまずファシリテーター向けに補助教材を提供し、その効果を検証できれば良いと考えている。 ・引き継ぎ事項3点目、私たちが目指す相談支援専門員の姿のバージョンアップについて。内容整理チームで検討してきたが、今年度は完成できなかったため、引き続き内容を精査し、令和7年度頃に研修に使用できるようにすることを目指している。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局からの報告について、付け加えることや修正点があれば意見を頂戴したい。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> ・検討体制について、現任研修と内容整理がクロスする部分が空欄になっている。現任研修チームは令和5年度中に令和6年度の研修の検討をしているので、現在チームに入っている、稲垣さんと古橋さんは記載していただいた方が良いかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・承知した、修正する。
美濃口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実習説明会実施後のアンケートについて、気になるところがあり、ご提案したい。 ・拠点機関の立場として感じるのは、実習が市区町村から任せられている印象があり、市区町村の関心が向いていないと感ずることがある。なるべくそうならないよう、報告をあげるなどフィードバックするよう意識している。 ・アンケートについても同様で、区市町村からきたものが、そのまま拠点機関に来て、回答を戻すだけになると、市区町村が人材育成に意識を持つという部分が薄まってしまう可能性があると思う。基幹が拠点機関になっている場合は、特に市区町村との連携を意識していく必要があり、対応できる人がするやり方だと、その人がいなくなった際に、できる仕組みがなくなってしまうということを危惧している。 ・アンケートの回答をする際、そのことを意識して回答したり、拠点機関と市区

	町村で共有できるような仕組みがあると良いと思う。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの内容についてということになるかと思うので、事務局で対応いただきたい。「なお、アンケートを実施する際は、自治体と拠点機関で、アンケート内容について情報共有してください」などの一文を入れられると良いのではないか。
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> この活動報告は別紙も含めホームページ掲載されるということで良いか。 前回の内容整理チームの打ち合わせで、週間計画作成にあたり情報が不足しているのではないかとということで、基本情報グラフィックを追記することになった。 現在の基本情報グラフィックの週間予定には、重度訪問介護が週2回入っている。相談支援事業所に依頼して新たに計画案をつくる中で、様々な希望を踏まえた計画案では、週3回になっているがその根拠がどこにも記載されていない。 根拠としては、急に毎日に増やすより、週3回からのほうが良いということは、実感としてあり、違和感はなかったが、重度訪問介護の使い方や、それを利用する人の生活、障害自体が分からないと理解が難しいかもしれない。母親の介護が大変になったことで、ヘルパーを使いながら一人暮らしを目指していきたいと言っているのに、サービス量が増えていないところが分かりづらい。基本情報の「性格」の部分に、陽介さんのような障害があり、好きなことには意欲的だけれど、やらなければいけないことはすすまない、という背景があることを書き足しておくべきか、現任研修の情報を整理するときまでに整えれば良いか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 事務局としては、今年度は資料として出したものを、成果として良いと考えている。
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> 承知した。今後、現任研修で新事例を使う際に、必要な情報や疑問がでてきたら、教えてもらいたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 変更するならば、資料2の2P「現在の社会状況・」という部分に蛭川委員が発言したように、エビデンスをベースにしたサービスの入れ方について、答えられるような情報を入れた、という一言を入れるというのはどうか。
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> そのように思う。週間計画を入れたことにより、受講者が、より根拠を知りたくなったのだろう。今までは、それほど細かいことは分からなくても、計画作成できたので、受講者には支障はないが、ファシリテーターが、質問に対して答えられないことがないよう、情報をもう少し具体的に準備しておけると良いと感じている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 案については、一言加えていただくという形で修正をお願いしたい。また、修正分に関しては、事務局に一任いただきたい。 それでは、協議事項の(3)の令和5年度活動報告の報告案につきましては、承認いただけるか
全員	(異議なし)

(4) 令和6年度検討体制について

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に検討事項の(4) 令和6年度検討体制について。事務局から説明願いたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3を確認いただきたい。 ・次年度の検討チームの編成については、大きな変更をせず、研修別のチームと課題別のチームの両方に所属していただく。そのことによる負担感の増加については、軽減方法を引き続き検討したい。 ・研修別チームでは、協力者の応援をいただきながら、実施する。また、検討会の全体会では、各チームからの提案事項について確認と了解を得る場とする。 ・研修別のチームの役割としては、プログラムや教材の見直しや修正作業などがある。また、現任研修や初任者研修については、ファシリテーター説明会での説明とセットになる。 チームメンバーについては、新しい方に入っていただきながら、無理なく内容が継続されるように運営する。各チームのリーダーは、2年以上の経験がある方から選出する。また、検討会委員を卒業された方やファシリテーターの経験者にもチームに加わっていただきたいと考えている。現任研修チームについては、令和6年度のチームが動いているので、人数は確定で入れている。 ・課題別の研修についても、今年度と同様、内容整理と人材育成の2つの柱で進めたい。全体を見渡して検証し、課題を抽出しながら、全体会で提案をしていく。基本的には検討会委員で構成するが、実働が必要になった場合は作業チームも検討する。 人材育成チームには、引き続き、現任研修と初任者研修での実習説明会の説明も含まれるので、お願いしたい。 ・以上が現在の案だが、皆様のご意見をいただきながら、場合によっては変更をしていきたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は意見交換がしやすかったこともあり、引き続き令和6年度も同様のチーム構成でいきたいというのが事務局案になるかと思う。皆様がどのチームに入るかについては、今後調整をお願いしたい。 ・事務局の提案内容について、これで了承いただけるか。意見があればお願いしたい。
横田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・枠組みとしては、了承したが、記載にあるとおり検討委員は各研修チームにおいては、バックアップにまわれるような体制をとれるよう、検討していただきたい。 ・実際は研修教材作成等にかかなり入り込んでやっている現状が今年度もあったかと思う。検討委員として、他に力を注げるような体制考えていただきたいと思っている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・その点については、以前より課題となっているので、事務局で宿題として考えていただきたい。検討会委員の役割はどこまでなのかということ常々言われ

	<p>ていて、その中で、前期の委員の皆様からは、つくる、見渡す、まわすという大きな研修の流れがある中で、検討会委員はどの立ち位置にあるのかと言われていたりという、流れがあったかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員の皆様から言われているのは、負担感の大きさということもあるかと思うので、事務局でしっかり受け止め、次の課題として、引き続き検討をお願いしたい。 では、次年度の研修別、課題別というチーム構成についてはこのような流れですすめていくということによいか。
藤田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 研修別チームのイメージとして、リーダーは2年以上の経験のある協力者から選出となっているが、協力者がリーダーになるという事で良いか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 2年以上経験とは、初任者研修なら初任者研修の教材づくりと想定していた。ただ現行は協力者からでなく、検討委員から選出されている。チームごとの編成を決める際に、ご意見をいただきたいが、全体を見渡す作業をする人がリーダーであったほうが良いので、ご指摘どおりここは協力者ではなく、2年以上経験のある検討委員のメンバーの中から選出されたほうが良いと思う。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 研修別のリーダーに関しては、協力者ではなく、検討会委員の皆様をお願いすることについて、了承いただけるか。 御意見あればお願いしたい。
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、とても負担はあった。研修教材作成について、内容整理チームは事例更新があるということで、作業には加わらなかった。結果、内容整理チームとして振り返ると、全日程にどのように関わるかということが、気になった。内容をよく理解しないまま部分的に参加しているほうが、心配になると感じた。 協力者には決められた役割を担っていただき、それを経て検討委員になるという道筋が見えると、分かりやすいので、軽減については検討しながら、リーダーは検討委員が担うことは致し方ないと思う。
藤田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 私も積極的にリーダーをやりたいわけではなく、作業は分散できたほうが良いが、協力者にそこまでお任せするのはどうかと思う。蛭川委員の発言のとおり、我々も一部分だけ協力というのは、気持ちも落ち着かず、全体を知っておく必要もあるので、どこを担うか明確になっているほうが良いと感じ意見をした。
美濃口委員	<ul style="list-style-type: none"> 前回お伝えしたが、令和7年度に向けて、資料3の在り方自体を事務局と検討委員とでざっくばらんに出し合う場が、皆さんが集まる機会が増える等、負担をかけるかと思うが、持てると良いかと思う。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> それでは、検討事項4、令和6年度検討体制については、資料3の修正をしたうえで、承認いただいたということによろしいか。
各委員	(異議なし)

(5) その他

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・その他ということで、何かあれば、ご提案をいただきたい。 ・今回が今年度、最後の検討会になる。研修づくりも含め、運営した中で、テーマとして議論をしておきたいことや伝えたい事があればお願いしたい。 ・美濃口委員から最後にあった、検討会委員の在り方についての提案は、その他の内容に含まれるかと思う。このことについては、皆様も共感を持っていると思うので、引き続き検討するというので、その他は良いか？
各委員	(異議なし)
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・用意した検討事項については、以上となる。貴重な意見をありがとうございました。 ・それでは、検討事項を全て終えたので、進行を事務局にお返しする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤委員長、進行ありがとうございました。委員の皆様もお疲れさまでした。 ・本日、令和5年度検討委員会の最終回となるため、閉会の前に、地域支援課長の外川よりご挨拶したい。
事務局（地域支援課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の東京都相談支援従事者研修については、ようやく多くの日程を会場で実施することができた。会場と一部オンラインでの実施ということで、準備には多くの時間を割いていただいた、まずもって検討委員の皆様方、研修協力者の皆さんに御礼申し上げます。 ・延べ200名を超す演習講師の方々、動画に出演いただいたサポーターの皆様にもご尽力いただいた。皆様のご支援により、現任研修が490名、初任者研修523名に研修を修了していただくことができた。多くの方々に支えられて本研修が成り立っていることを、事務局一同、厚く御礼を申し上げます。 ・さて、長きにわたりこの研修検討会の委員長を担っていただいた、法政大学現代福祉学部教授佐藤繭美先生が、今年度で委員を退任されるとの意向を伺っている。令和2年度のカリキュラム変更から始まり、多角的な視点での確かな導きをしていただいた佐藤委員長には、感謝の念が絶えない。今後もぜひ我々の活動を、見守っていただけるとありがたい。佐藤先生から一言、お願いしたい
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度で退任する。本当にお世話になり、ありがとうございました。 ・皆様の貴重な意見で成り立ってきたところもあり、感謝してもしきれない。私自身は検討会の場で皆様と会うことがほとんどだったが、皆様はそれ以外にも多くの会議を行っていて、それを事務局と共有しながら方向性について打合せをしていた。 ・皆様は、東京都の障害領域の福祉が少しでも良くなるようにとの思いでご尽力いただいていると思う。その熱い思いを、様々な方に継承してもらおうということが私の使命だったと思うので、この検討会の場で様々な意見をいただけたのは、私としても財産だったと思う。今後も、どこかでお会いした際は、お声がけいただきたい。ありがとうございました。
事務局（地域支援課長）	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、委員を務めていただく皆様も1年間ありがとうございました。来年度も変わらぬご理解とご協力、ご支援のほど、よろしくお願いしたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・以上で、閉会の辞とする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・最後に事務連絡をする。 ・本日の配付資料と議事録の要旨については、メーリングリストで確認をし、ホームページに掲載するのでご協力をお願いしたい。 ・令和6年度第1回目検討委員会については現在、5月31日金曜日の午後開催の予定で調整を進めているので、承知おきいただきたい。 ・以上で閉会とする。本日のご参加ありがとうございました。